



## Ⅱ. 研修内容に関すること

1. 研修期間 ( 12 ) か月

2. 研修プログラム

時期 (月) ※1	研修テーマ	形式※2 (該当項目 に○を付け て下さい。)		研修場所 (※3)	時間数	研修内容
		講義	演習			
4月	ポートフォリオ	○	○	部署外(院 内会議室 等)	3	ポートフォリオの概要説明。今後の研修への役立て方。
	病院における リスクマネジメント	○			2	医療安全管理委員会の活動を学ぶ 報告書の書き方と報告手順がわかる 5S活動・KYTについて学ぶ
	診療録の管理	○			1	診療録の内容と管理、保管について学ぶ 診療録に関する法的理解を深める
	NSTの取組みと意義・栄養課の役割	○			3	NSTの活動内容と取組みの意義を学ぶ 栄養課の役割について知る
	感染対策	○	○		2	感染経路別予防策を理解する スタンダードプリコーションについて学ぶ 針刺し事故対策について学ぶ
	滅菌物の取り扱いと手術室の役割	○	○		8	滅菌・清潔についての知識を深める 滅菌・清潔物品の取り扱いがわかる
	検査値の基礎知識と検査室の役割	○	○		3	検査値の基礎的知識を学ぶ 簡易型血糖測定器の使い方を学ぶ 検査コンピューターの使い方を学ぶ
	病院の防火・防災対策と施設課の役割	○			3	病院の防災対策について学ぶ
	リハビリテーションの実際摂食・嚥下障害のリハビリテーション	○	○		8	リハビリテーションに関する基礎を学ぶ 松葉杖、歩行器、車椅子の安全な使用法がわかる 口腔ケアの意義と実際を知る 嚥下障害のある患者への食事介助の実際を学ぶ
	褥創の基礎知識	○	○		3	褥創についての知識と最新の処置方法について学ぶ 褥創対策診療計画書の記入の仕方がわかる
	放射線の基礎知識と放射線科の役割	○	○		3	放射線暴露対策の重要性を学ぶ マニュアルの説明を受ける

5月	採血・静脈内注射の基礎知	○	○	部署外(院内会議室等)	8	静脈内注射及び採血について、知識と技術を学ぶ
4月	呼吸療法・酸素療法	○			3	呼吸管理におけるフィジカルアセスメントについて学ぶ 呼吸管理に必要なモニタリング・酸素吸入方法の注意点を学ぶ
	呼吸管理の基礎知識	○			1	呼吸器の解剖整理を学ぶ 貯痰機序を学ぶ 吸引時の観察事項を学ぶ
	輸血療法	○	○		3	血液製剤の使用上の留意事項(製剤名・副作用)について学ぶ 輸血療法の実際(管理手順と確認方法)を学ぶ
	ME機器の取扱い	○	○		3	輸液ポンプ・シリンジポンプの基本的操作方法を学ぶ 人工呼吸器・心電図モニター等、医療機器の正しい使用方法を学ぶ
	保険請求とカルテの流れ・医事課の役割	○			2	保険請求の基礎知識、診療録開示の手順を学ぶ 外来患者受診の流れがわかる
	薬剤の基礎知識・薬剤師の役割	○	○		2	薬剤の基礎知識を学ぶ 麻薬・劇薬の知識と管理方法を学ぶ インスリン製剤の種類と作用時間・保管管理方法を学ぶ 院内外処方ルールを学ぶ
	対人関係技術	○	○		2	コミュニケーションの実際を学ぶ
5月	看護記録	○	○		3	看護記録の基本を学ぶ
	医療用酸素の取り扱い	○	○		1	医療用ガスの種類と留意事項を学ぶ 酸素ボンベの基本的操作を学ぶ
	吸引の実際	○	○		1	吸引実施に際しての注意点を学ぶ
	呼吸器・循環器・脳神経系のフィジカルアセスメント	○	○		4	呼吸器・循環器・脳神経のフィジカルアセスメントを学ぶ 集中ケア認定看護師の講義を受ける
	患者体験		○		3	病棟、透析室で実際に患者体験をする。各部署で特有な患者の状況を設定し、それに基づき患者の日常を体験する。
	模擬患者体験	○	○		3	患者設定をしたシナリオに基づきロールプレイ。患者役は地域の方。患者への接し方を学ぶ。
6月	アセスメントのできる看護師になろう	○	○		4	5月の行ったフィジカルアセスメントの講義を看護現場で生かすための研修。主要な症状から、患者のおかれている状態を読み取る力をつける。この研修会は医師がファシリテーター。

7月	ケースレポート 発表会		○	部署外(院 内会議室 等)	4	患者の病態生理を理解してアセスメントし、看護計画を立案し、ケースレポートをまとめて発表する
8月	救急蘇生	○	○		4	救急カートの中の薬剤の作用を調べ、レポート提出。救急時の流れが理解するために、実際にデモンストレーションをしながら学習する。当院3年目研修生と医師がファシリテーターとなって実施。
9月	宿泊研修会		○	県内宿泊 施設	1.5日	島根県内の医系病院の新人看護師が集まり交流会と研修会を実施。先輩看護師からの体験談を聞いて離、お互いの近況を報告し合い、今後の活力とする。
11月	多重課題シ ミュレーション	○	○	部署外(院 内会議室 等)	4	多重課題を抱える現状において、看護ケアを安全に行うための心構えを学ぶ。研修委員会が作成した多重課題の場面のシナリオを使い、研修生1人1人が対応する。
1月	看護観発表会		○		2	1年間のまとめとして発表。今年度の全新任職員の発表会を企画。
3月	症例発表会		○		4	受け持ち患者さんの看護のまとめを症例としてまとめ、発表する。

※1 時期には実施月をご記入ください。

※2 形式には講義・演習の当てはまる方に○を記入して下さい。両方に○を記入しても差し支えありません。

※3 新人自身が所属する部署の場合「部署内」、自身の所属する部署以外の場合「部署外」と記入して、さらに、具体的な場所を記入して下さい。

※4 行が不足した場合、適宜追加してご記入ください

### 3. 研修の指導体制の詳細(各看護単位、看護部門)

研修責任者 1名 研修委員11名(6看護単位より選出) 新人看護師配置部署に新人看護師1名につきそれぞれプリセプターを配置

### 4. 各看護単位では経験できないが、新人看護職に必要な知識・技術の修得方法

4月～5月の導入期研修で、1年次に習得が必要な研修項目の実践を行っている。診療科の違いから習得の難しい項目は、部署を超えて研修に行く場合もある。

5. 経験できる技術が少ない場合の工夫

問4と同様の対策を取っている

Ⅲ. 新人看護職員の到達度等の評価に関すること

1. 評価時期(自由にご記入ください)

配属先決定前、配属先決定時、配属後1週間、配属後1カ月、配属後3カ月、夜勤研修修了時、6カ月目、9ヶ月目、1年目

2. 評価者(自由にご記入ください)

研修委員、プリセプター、各職場の師長、主任

3. 評価方法(自由にご記入ください)

当院の技術チェックリスト、各時期ごとの面接用紙、評価用紙

## IV. 指導者等の育成に関すること

### 1. 実地指導者の育成に関する取り組み(研修の実施等)について(自由にご記入ください)

年3回実施。

1回目: 職場責任者等も交えて、新人看護師ガイドラインに沿った新人教育の考え方実施の方法などの講義。外部講師。

2回目: 院内の要項に沿って、新人指導の考え方を講義。主にコミュニケーションについて演習。

### 2. 教育担当者の育成に関する取り組み(研修の実施等)について(自由にご記入ください)

院内ではできていません。県看護協会主催の研修会に参加しました。

## V. 事業の評価等に関すること

### 1. 事業の実施にあたって工夫した点(自由にご記入ください)

・病院内の医師を含めた多職種に協力を依頼した。これは看護の仕事を理解する上で、またチーム医療を理解するうえでも重要な事と位置づけている。

・他施設の教育担当者を研修会に招き、客観的に指導してもらったり、意見交流した。

・多くの職種もないし、認定看護師もないので、メーカーMRの力を借りたり、他施設の認定看護師を講師に招いた。

・各職場の師長の協力も得られ、発表会には進んで参加してもらえ、助かった。

・同じ年度に就職した他職種の職員と合同の発表会(1年の振り返り)を開催し、職種を超えて頑張りを認めあう機会を設けた。

・毎年就職する人数が違う事、また対応できる職場に限度がある事から、きめ細やかな話し合いのもとに毎年実施している

・研修委員会(教育委員会)の開催を、1回/月⇒2回/月にふやし、委員会レベルでの情報共有の場を増やした。委員会を増やすことで持ちかえりの仕事をなくし、研修委員(教育委員)の負担を減らした。

### 2. 事業の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

例年実施してきたことなので、この事業が始まったことで何か特別変わったということはない。